

氏名	三宅 一樹 (ミヤケ イキ)		
学位の種類	博士(芸術)		
学位記番号	甲第25号		
学位授与日	平成21年3月23日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目	木彫刻の心技体 ものつくりのアニミズム		
審査委員	主査 教授	諸川 春樹	
	副査 教授	近藤 秀實	
	副査 教授	竹田 光幸	
	副査 東京国立博物館 特任研究員	金子 啓明	

内容の要旨

「木彫刻」- それは、木と彫刻という素晴らしい二要素の融合。その相乗効果は計り知れない可能性を秘めている。木にはやすらぎや暖かみがあるとよく言われるが、その奥行きは深く広大で、宇宙的だ。これほど魅惑的で神秘的、かつ呪術的な素材もないだろう。

「木」から「木彫刻」へと転生した名作からは、ある共通した法則を見出すことができる。それは、古来より日本人が綿々と受け継いできてくれた財産のひとつ、「心技体」である。

「心」- 高い精神力、「技」- 伝統に裏打ちされた道具・作法、「体」- 身体に対する深い理解。木彫刻は芸術分野にありながら、日本の伝統的武道との共通点を多く持っている。だがその木彫刻はいま、情報化社会の激流においてその真価が問われている。しかし活路は開けるだろう。時代の荒波を乗り越えるそのヒントは、この心技体を充実させることで見えてくる。

I 「木彫刻の心技体」

「心」- 木彫刻の心性

すべての芸術創造の源は「心」にあるが、木彫刻における重要度は特に高い。なぜならば、木は数ある造形素材の中でも唯一の生命体であり、氣を孕む「いのち」そのものであるからだ。

木はカミが宿る依代（よりしろ）である。古代の日本人は人智の及ばぬところにカミを見た。万物に精霊が宿ると信ずる自然崇拜思考を「アニミズム」と呼ぶが、仏教伝来よりはるか昔から、日本人の精神の根底を支えてきた。

アニミズムを読み解くキーファクターとして、私は「氣」に着目した。氣はインドでは「PRANA」と呼び、「vital force（生命エネルギー）」という意味を持つ。氣は生命体を支え、その生命体間を自在に流れ宇宙を構成している。氣の存在はこれまで様々な分野でその可能性の扉を開いてきた。しかし芸術の分野においては未だ積極的に取り入れられてはいない。そこで私は実制作者の観点から、氣が美の造形要素たりえることを多角的に検証してみた。

テクノロジーはもう十分すぎるほど進化している。しかしコスモロジーを語るには「アニミズム」や「氣」の理解が欠かせない。これからの現代・未来に必要なものは、これら人智を超えたものに対する“畏敬の念”にあるとの仮説をたてた。

「技」－ 道具のころ

数ある造形芸術の中でもおそらく日本の木彫刻は、最も技法が多岐にわたる分野である。それは背後に1400年もの文化と伝統を有するからであろうか。時代の変遷に伴い、夥しい種類の木彫道具が編み出され、進化を遂げてきた。それゆえに伝統ある木彫道具はそれ自体が精神性を孕み、扱う人間によって磨かれ、優れた能力を発揮する。

「道具」は「工具」ではない。“道の具え”である。道具にはcivilizationの縮図とも言うことが出来るほどの奥深さを具えている。

「体」－ 木への畏敬

日本人は木と共に暮らし、優れた木の文化を形成してきた。木へ対する思いは「畏敬の念」にまで高められている。日本はその湿潤な気候風土から樹種にも恵まれているが、特にその使い分けにおいて極めて繊細な感覚を発揮している。木に対するその高次な心遣いから学ぶことは実に多い。それは、木を単なる素材として従属的に扱うのではなく、あたかも人間のように個々の性質を汲みとり、敬意を払って接してきたからである。

私はこの10年間、「榧（かや）」という木を主要素材として彫刻制作を行ってきた。榧は日本彫刻史を語る上で非常に重要な素材で、平安時代初期の仏像はほぼ全て榧で彫られている。この木の持つ強い個性はアニミズムに基づく呪術性の高い仏像を生み、ねばりのある緻密な材質は翻波式衣紋を生んだ。さらに刃物道具も発達させ、その後の日本文化の感受性と高い技術力を育んだ。この榧を中心に、木素材が持つ底力について論じた。

II 「木彫刻作品へのアプローチ」

心技体の要素を踏まえ、木彫刻作品に具現化するアプローチを、自作を通じて考察した。

榧との対話から生まれた自作シリーズ《素脚詞》では、「適材適所の技法」へと発展させて研究し、《OGA》シリーズでは、「水平」、「重力」、「垂直」、「玄」をキーワードに作品を制作・論考した。これらは、彫刻造形にとって本質に迫る重要な造形要素である。

木はカミを宿し、生命には氣が流れる。YOGA シリーズはそれらの造形要素が結びつき、「心技体」を研究する上でまことに相応しいテーマの作品群となった。YŌGA」とはまさに、サンスクリット語で「結びつける」という意味なのだ。

本論文は、「木彫刻の心技体」が生み出す美の魅力を、絶やすことなく後世へ伝承するための一研究である。